

平成25年度事業報告書

特定非営利活動法人日本移植者スポーツ協会

I. 事業期間

平成25年4月1日から26年3月31日

II. 事業の成果

<事業実施の総括>

当協会は、スポーツを通じ社会に移植医療の素晴らしさを伝え、移植医療の普及啓発に努めることと、移植者がスポーツに親しむ機会を提供し、心身の健全化をめざし、術後生活の充実に寄与することを主たる目的として平成10年に日本臓器移植者スポーツ振興会として発足し、平成12年に大阪府より特定非営利活動法人日本移植者スポーツ協会として承認を受けた。

平成13年には兵庫県において第13回世界移植者スポーツ大会の開催を契機に、翌年の平成14年以からNPO日本移植者協議会と協力し全国移植者スポーツ大会を開催すると共に、世界移植者スポーツ大会連盟の加入団体として選手の派遣、支援を主たる業務として活動している。

漸く平成22年7月17日に改正臓器移植法が全面施行された。これにより我が国も諸外国と変わらぬ制度となり、大きな飛躍が期待された。しかしながら脳死下臓器提供は大幅に増加したが、臓器提供者の総数は増加していない。

臓器提供する、しないは、それぞれ尊重されなければならない権利であり、一人ひとりが移植医療を自分自身の問題として考え、決定されるものである。そのためには移植医療の情報を正しく伝えることが重要である。

スポーツに言葉入らない。移植者が元気に走り跳ぶ姿は、ストレートに移植医療の素晴らしさを伝えることができる。スポーツを通じ移植医療への理解を広める活動として全国移植者スポーツ大会は、平成3年から全国各地を巡回開催されている。

本年は9月21日(土)、22日(日)に鹿児島県霧島市国分運動公園(霧島市)をメイン会場として開催した。今大会は、1991年の第1回大会から数えて22回目となる。

鹿児島県の一般の方々に広く移植医療への関心を喚起するようメディア誘致に努め、移植医療の素晴らしさを、スポーツを通じて広く発信することが出来た。

また例年同様、アジア及び国内から12歳以下の子どもたちを15名招待し、第9回ノバルティス・ギフト・オブ・ライフ・カップを実施した。

ドナーとドナー家族が理解され称賛される社会の形成なくして移植医療の普及はあり得ない。当協会では平成13年の第13回世界移植者スポーツ大会以来、ドナー家族の方々と交流を続けている。我々はこの大会を通じ移植者としてドナー、ドナー家族の方々の尊い意思と決断に対して感謝と尊敬の念を表すとともに、一般の人にもこの大会をきっかけに理解を広げようとドナー家族3名に参加いただいた。しかし当初予定していた地元の鹿児島県のドナー家族に呼びかけることが出来なかった。今後も広くドナー家族に参加を呼びかけるよう努め、社会へ理

解を呼びかける。

一般への普及啓発活動としては、移植医療への理解を広く深めることを目的として、本年度も世界移植者スポーツ大会や全国移植者スポーツ大会の写真パネル展示を第7回グリーンリボンランニングフェスティバルやギフト・オブ・ライフ作品展と連動して展示を行った。しかし開催回数が少なく、今後は機会を増やす努力が必要である。

平成13年度に設立したローンボウルズ同好会の事業として、例年北海道石狩市茨戸カントリークラブにて過去9回開催しているが、平成25年度も北海道以外の会員やNPO日本移植者協議会会員の参加者が減少しており、開催を企画することができなかった。

今後もローンボウルズを生涯スポーツ及び障害者スポーツとして位置づけ、ローンボウルズ同好会の活動を支援し、普及に努める。

当協会は今後もNPO日本移植者協議会や関係団体と協力し、スポーツを通じて移植医療の普及啓発事業を進めなければならない。

Ⅲ.事業の実施

＜事業実施に関する事項＞

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 第22回全国移植者スポーツ大会

【内容】

陸上、水泳、卓球、バドミントン、テニス、ボウリング、バウンドテニス、ゴルフ、ダーツ、ユニカール等の競技を行った。

今年も子どもたちの競技会（第9回ノバルティス・ギフト・オブ・ライフ・カップ）を12歳以下の移植を受けた子どもたちを対象として実施した。

なお22日午後の陸上競技は、少し暑さを心配しましたが、参加者・審判員・ボランティアとも十分な水分を摂りながらスムーズに実施できました。

海外からは香港、韓国の2カ国から3名を、国内から12名の子どもを招待した。

ドナー家族は3名をご招待し、ドナー・ドナー家族へ感謝の意を表するとともに親睦交流を深めた。

実施にあたっては、ボランティアとして鹿児島県移植の会、県内一般の方、鹿児島県立国分高等学校及び霧島市立国分中央高等学校、霧島市及び始良地区の各競技団体の協力を得た。

【実施場所】霧島市国分運動公園・霧島市国分総合プール・国分スターレーン・かごしま空港36カントリークラブ等

【実施日時】平成25年9月21日（土）／22日（日）

【事業の対象者】

心臓移植8名、肝臓移植6名（うち海外1名）、肺4名、膵臓1名、心肺1名、腎臓移植37名（うち海外1名） 計 57名

家族その他 75名（うち海外5名）ドナーファミリー 3名、 計132名

大会スタッフ 競技審判（補助含む）、ボランティアを含め 総計200名

ノバルティス・ギフト・オブ・ライフカップ：海外3名、国内12名 合計15名

【取材メディア】南日本新聞他、多くの取材があり、当日も含め報道されました。

② ローンボウルズ同好会（日本移植者ローンボウルズ倶楽部）活動事業

【内容】北海道石狩市でのローンボウルズ大会は、平成25年度の開催も、諸事情により中止した。

今年は、複数人か、個人で下記会場において、練習を重ねて各種大会へエントリーしている。今期においては、1大会のみであった。

【実施場所】神戸市しあわせの村ローンボウルズ場

茨戸カントリークラブ（石狩市）

昭和記念公園（立川市）

【実施日時】 随時

【事業の対象者】移植者・その家族

③ 写真展示事業

【内容】第7回グリーンリボンランニングフェスティバルなど移植関連イベントにおいて写真パネル制作し展示した。

【実施場所】国立競技場ほか

【実施日時】10月20日（日）

【事業の対象者】一般

(2) 収益事業

収益事業は行わなかった。

IV.社員総会の開催状況

通常総会 日時：25年6月16日

場所：ハートンホテル京都

社員総数：24名

出席社員数：19名（委任状2名を含む）

V.理事会その他の役員会開催状況

25年6月16日 理事会開催